

(7) 事業の進ちよく状況

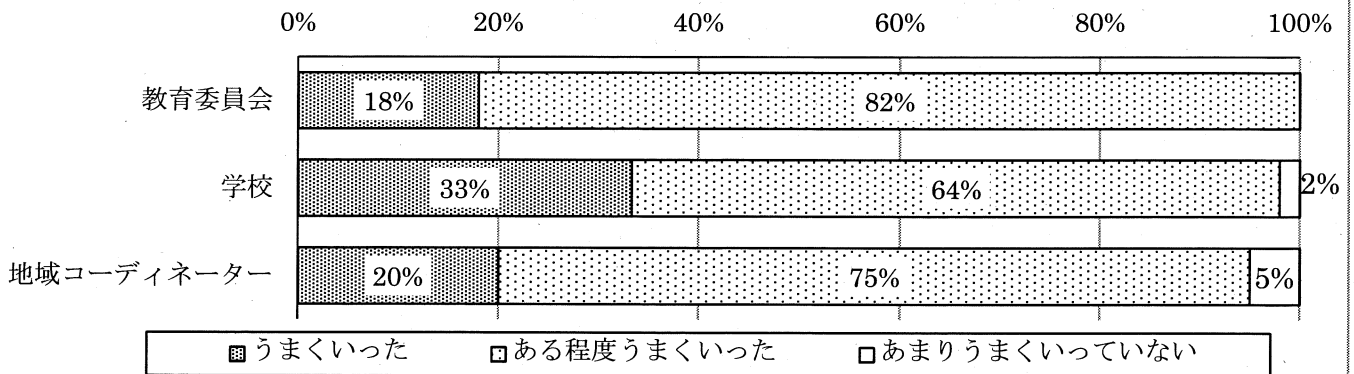
ア 教育委員会・学校・地域コーディネーターから

事業(活動)はうまく進みましたか。(どれか1つ) 教委問1(3) 学校問1(3) コーディネーター問1(9)

図7-ア

事業はうまく進んだか

教育委員会 n=11 学校 n=84 地域コーディネーター n=61



イ うまくいった理由

うまくいった理由は何ですか。(主なもの3つ) 教委問1(4) 学校問1(3) コーディネーター追加

図7-イ

事業がうまくいった理由

教育委員会 n=11 学校 n=82 地域コーディネーター n=28

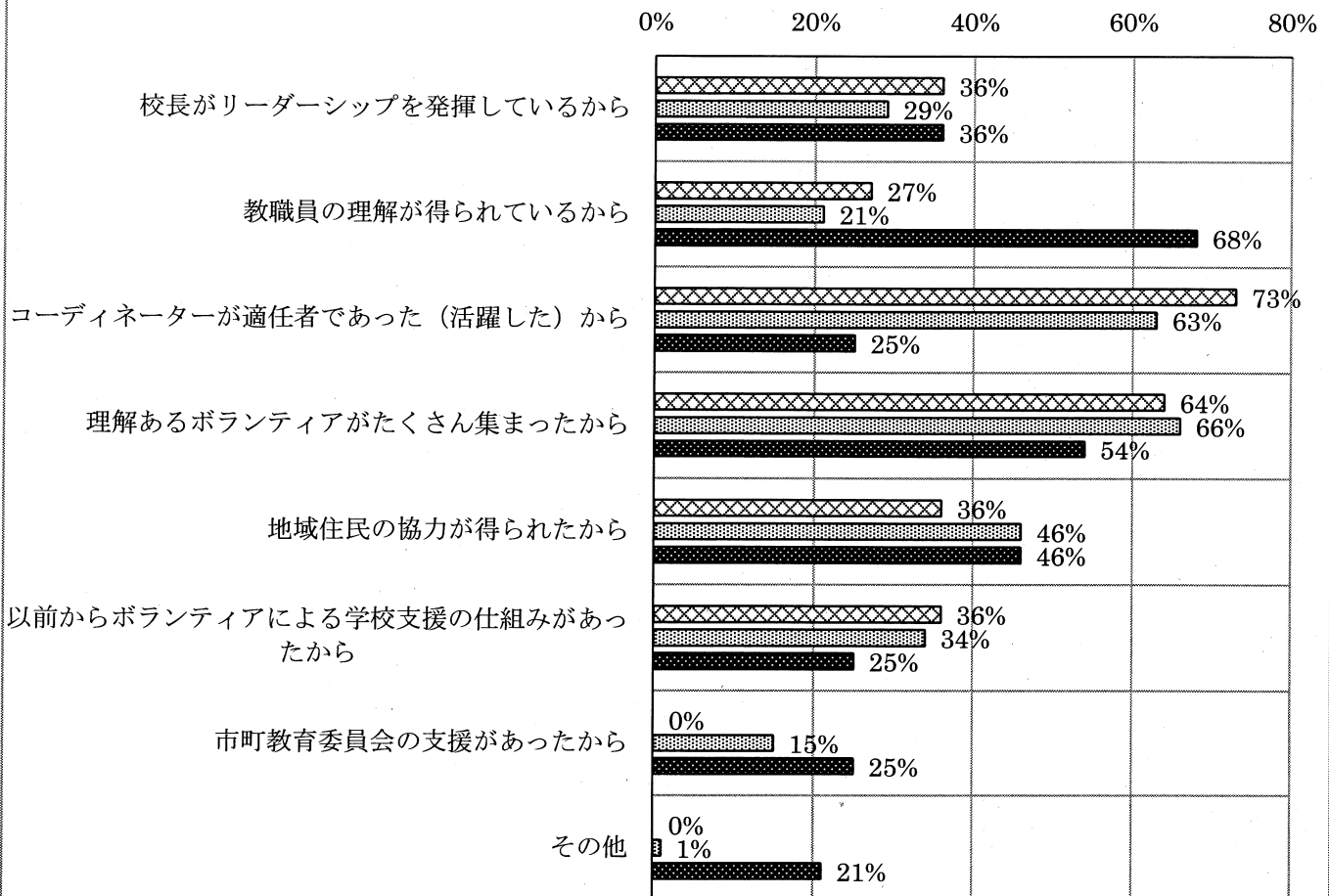


図 7-アから、教育委員会・学校・地域コーディネーターからの事業の評価についての回答では、「うまくいった・ある程度うまくいった」の割合が、教育委員会 100%、学校 98%、地域コーディネーターは 95%と高い割合であり、いずれも事業がうまくいったと実感していることが分かる。

また、事業が「うまくいった」と回答した理由として図 7-イから、「理解あるボランティアがたくさん集まったから」を、教育委員会担当者 64%、学校担当者 66%、地域コーディネーター54%と、いずれも半数以上の高い割合で選んでいることが分かる。また、地域コーディネーターは「理解あるボランティアが集まったから」の他に、「教職員の理解が得られているから」を選んだ割合が 68%と高いことが分かる。さらに、「コーディネーターが適任者であったから」については、教育委員会 73%と最も高く、学校も 63%と高い割合で選んでいる。

「理解あるボランティアがたくさん集まった」「教職員の理解が得られた」ということは、それぞれの理解を促してきた地域コーディネーターの努力によるものである。このことから、事業がうまくいった理由をまとめると、教育委員会と学校の指摘のとおり、優れた地域コーディネーターの活躍により、教職員やボランティアの理解が得られたからということができよう。

その他・・・うまくいった理由 地域コーディネーター自由記述より抜粋

- ・副校長先生だけでなく、教職員全員が信頼してくれていたこと。
- ・月に一度のコーディネーター会議を行ったこと。
- ・日頃より地域や社会活動に熱心に活動されている地域住民の方々の理解と協力。
- ・なるべく早く広報紙により、みんなに伝えること。
- ・コーディネーターが動きやすい環境の学校なので。
- ・保護者やボランティアの意見・感想を吸い上げたり、教職員のニーズ（独り言）を拾うようにした。
- ・地域全体で盛り上がっている。
- ・校長・副校長・コーディネーターのコミュニケーション・意思統一がうまく行ったこと。
- ・コーディネーターどうしが連携しており、2か月に1度のペースで全体会議。
- ・定期的（月1回実施）にコーディネーター会議を行ったこと。
- ・コーディネーター間の人間関係がうまくいっている。
- ・世代を超えて小学校に愛着のある人が数多く住んでいる。
- ・協議会長、学校長、PTA会長、そしてコーディネーター間で大変コミュニケーションがうまくとれている。
- ・以前から地域の皆さんの協力がある。
- ・共通のくくりができたため横の協力体制や情報の共有化ができるようになった。

ウ うまくいかなかった理由

うまくいかなかった理由は何ですか。（主なもの3つ） 教委問1(5) 学校問1(4) コーディネーター追加

表 事業がうまくいかなかった理由（学校n=2 地域コーディネーターn=3）

理 由	学 校	コーディネーター
教職員の理解が得られなかったから		2名
教職員の負担が大きかったから		1名
コーディネーターが十分力を発揮できなかったから	2名	3名
ボランティアに参加する地域住民が少なかったから	1名	1名
活動費の使い勝手がよくなかったから	1名	

事業がうまくいかなかった理由として「コーディネーターが十分に力を発揮できなかったから」を学校、地域コーディネーター合わせて5名が選んでいる。「教職員の理解が得られなかったから」「ボランティアに参加する地域住民が少なかったから」についても複数の回答があった。